

大 学 殿 事

弘安元年 五七歳

いのりなんどの仰せかうほるべしとをばへ候はざりつるに、をほせたびて候事のかたじけなさ。かつはし師なり、かつは弟子なり、かつはだ禮んな那なり。御ためにはく頭び切もきられ、遠流にもなり候へ。かわる事ならばいかでかかわらざるべき。されども此の事は叶ふまじきにて候ぞ。大がく学と申す人は、ふつうの人には似に、日蓮が御かん勤きの時身をすてかたうどして候ひし人なり。此の仰せは城じょう殿の御計らひなり。城殿と大がく殿は知音にてをはし候。其の故は大がく殿は坂東第一の御てかき、城じょうのすけ介殿は御てをこのまる手る好人なり。